



幹事会だより

第354回 2月2日(木)伊丹市産業情報センター 参加5人

◆北阪神支部の会員数と組織率

2/1現在 医科330人(72%)、歯科187人(56%)

◆情勢と医療運動対策

①来年夏に行われる兵庫県知事選挙に関連して井戸県政の検証、②自治体キャラバンの報告、③新春政策研究会(1/21)の感想や接遇研修会(5/20)などについて意見交換した。

◆当面の支部活動

5月20日 接遇研修会「接遇の基本とクレーム対応(仮)」15時～
於・大阪研修センター伊丹 大会議室

◆次回幹事会

3月2日(木)14時30分～ 於・宝塚商工会議所特別会議室B
お問い合わせはTEL 078-393-1817 有本・横山・小川まで

ご家族・お知り合いの先生を ご紹介ください

保険医協会は県下で7,200人以上の医師・歯科医師が入会し、開業医が安心して診療に打ち込めるよう支えあう、開業医自身がつくる団体です。保険請求対策、審査指導対策、新規開業医研究会、医院経営研究会、歯科定例研究会等など開業医師・歯科医師の診療、経営、生活を全面的にサポートします。

また、3大共済制度(グループ保険・保険医年金・休業保障制度)への加入など、県下で1,500人を超える勤務医の先生方にご利用いただいております。

ご家族やお知り合いの先生で、まだ協会未入会の先生がいらっしゃいましたら、紹介状などのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ等は、組織部(Tel 078-393-1817)まで



兵庫県保険医協会のホームページは

<http://www.hhk.jp/>

*生涯研修に役立つ各種研究会のご案内、生活を支える共済制度のご紹介、日々の協会活動報告を掲載しております。ぜひご覧ください!

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2017年 2月25日号 No.268

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

新春政策研究会 感想文

健康格差の拡大 許せない

宝塚市・脇野 耕一 先生

支部は、1月21日に恒例の新春政策研究会をいたみホールで開催し、会員ら11人が参加した。「税制改革と社会保障の財源論」をテーマに加藤擁一副理事長・政策部長が講演した。参加した脇野耕一副支部長の感想文を紹介する。



政府のねらう患者負担増計画を加藤先生がわかりやすく解説

医療費抑制の政策は、①患者負担を増やす、②入院ベッドを減らす、の二本柱。いくつかの負担増計画が先送りにされる中、現時点で取り下げられずに残っている最大のものは「高額療養費の月額上限の引き上げ」である。

例えば70歳以上で「一般所得」の方の自己負担限度額の上限1万2千円が引き上げられれば、在宅患者を直撃する。負担上限額が数倍になる方が多数出てくるだろう。病床を削減し「在宅へ」という政府の政策の流れと矛盾する。このことは重大である。政府が特定の所得層に、在宅に移行するハードルを上げることになるからだ。「たまたま負担が増えた方は気の毒だ」という問題ではすまない。

これは「運・不運」の問題ではない。社会保障費の自然増圧縮という名で健康の不平等を拡大する政策であり、断じて許せない。健康格差は改善すべきものであり、拡大してはならないと強く感じている。研究会の後の「だんらん処 一(いち)」で親交を深めた意義は大きかった。



活発に意見が交流された

会員投稿コーナー

戦時下の思想弾圧～京都大学滝川事件（下）

伊丹市・小泉医院 小泉 勇 先生

滝川事件は京都大の刑法担当教授の滝川幸辰の罷免を文部大臣鳩山一郎が要求したことから起こった。これには右翼の「ごろつき」学者蓑田胸喜らのはたらきかけがあった。

京大法学部はこれに挑戦するために教授全員が辞表提出。助教授、講師、助手もこれになり 40 名ほどの辞表が出された。また、学生も教授会を支持し、授業をボイコットするとともに、「総退学」運動を展開した。学生運動のほうは、東京大、東北大、九州大にも飛び火し、京大支援の運動が盛り上がった。

文部省は佐々木惣一、末川博ら強硬派とみられる 6 教授の辞表を受理し、教授会の切り崩しが行われた。この時、恒藤恭らは慰留をけて辞任したが、他の多くの教授は辞表を撤回。大学の完全な敗北の内に終わった。

この頃から学者はなるべく口を閉ざして「勇気ある言葉」は外に出さないようにした。また便乗派の教授が次第に勢力を増し、大学自治の右傾化が進められたことは、明らかにファシズムに対する学問の敗北であり、大学の転落の道であった。

この事件は、その後の学問弾圧の過程の原型をなしており、それがすべて軍＝右翼で演出されていたところに、その重大性があった。京大法学部は、一応は抵抗に立ち上がった。しかしそれも政府の分裂工作の前にあえなく撤退してしまった。また、一般の知識人といわれる人たちも、結束して抵抗に立ち上がる勇気もなかったし、組織もなかった。だから個々の知識人は、自分の殻の中に閉じこもって個人の良心だけを守るという形以外になかった。だが、そういう蛸壺は何の役にも立たなかった。ファシズムの戦車はそんなものを踏みつぶしたまま、遙か先へ戦線を進めていった。取り残された知識人はただ「貝になって」ちぢこまっている以外にはなかったのである。

1945 年の敗戦後、立命館大学総長となった末川博は戦没学生を記念する「わだつみの像」を大学に受入れ、像は現在立命館大学国際平和ミュージアムに置かれている。戦没学生の手記「きけ、わだつみの声」（岩波書店発行）をぜひ読んでいただきたい。



☆北阪神支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。

TEL 078-393-1817 / FAX 078-393-1802 e-mail arimoto@doc-net.or.jp 担当；有本まで

憲法県政宝塚の会 第 3 回総会

県政変える力を 県民の中に

支部が参加する「憲法が輝く兵庫県政をつくる宝塚の会（憲法県政宝塚の会）」は 2 月 11 日に第 3 回総会を宝塚市立勤労市民センターにて開催し、市民ら 50 人が参加した。7 月に行われる県知事選挙に憲法県政の会より立候補を表明している津川知久氏を、憲法県政宝塚の会としても推薦することを報告し、宝塚市内にサポーターを 1 万人の組織に取り組むことなどが提案され、承認された。



田中氏が県政を変える重要性を訴えた

憲法県政の会代表幹事の田中耕太郎氏が記念講演を行った。県政は「わかりにくい」と言われるが、米軍の新基地建設反対を訴える翁長雄志沖縄県知事や、柏崎刈羽原発の再稼働反対を訴え当選した米山隆一新潟県知事の活躍などを紹介し、県知事の姿勢によって県



あいさつする津川氏

民の生活は大きく変わると訴えた。田中氏は、阪神・淡路大震災発生後、被災者の生活再建のための税金投入を求めて国へ請願を行ったが、「県知事からの要請がないから」と断られた経験から、兵庫県民を守る立場の知事を誕生させる重要性を訴えた。

また、憲法県政の会より立候補を表明している津川知久氏があいさつを行い、県知事をめざすにあたって、知事としての力をつけていきたいと決意を述べた。また、県知事が替わるだけでは、県

政が自動的に変化することではなく、県政を動かす力を県民の中に根ざしていくことが重要だと訴えた。

健康情報テレホンサービス

通話料無料 (0120) 979-451



< 3 月のテーマ >

月曜日 育てにくさを感じる場合

火曜日 寝たきりの人の歯の手入れ

水曜日 骨も鍛えれば丈夫になる

木曜日 食道がん

金土日 発疹のでる病気と出席停止について

(20 日 (月) は、金土日曜日のテーマを放送)